

政府も悩む花粉症

(2005. 2. 12 日経新聞)

C班

長尾亮子

矢後佑樹

福野志保

菅祐一郎

2005. 4. 27(水)

記事の要約

政府が花粉対策に本腰を入れて取り組む姿勢を示している。厚生労働相、農林水産相、環境相らが、様々な取り組みを報告し、「国民的課題」として対策に取り組むことを提案した。しかし、花粉を減らすなどの対策には時間がかかるとされ、今度どのように対策していくのかといった方向性はほとんど見えていない。対策の実効性について疑問の声もあがっているが、「地道に取り組むことしか解決策はない」と長期にわたる取り組みが求められている。

問題提起

- 花粉症問題⇒様々な対策
 - * ここでは、「木」(スギ、ヒノキ)そのものに着目
- 今回の政府の取り組み姿勢・・・不透明な結論
 - * どんな策を講じるにせよ、長期的なスパンで問題を見ていく必要がある

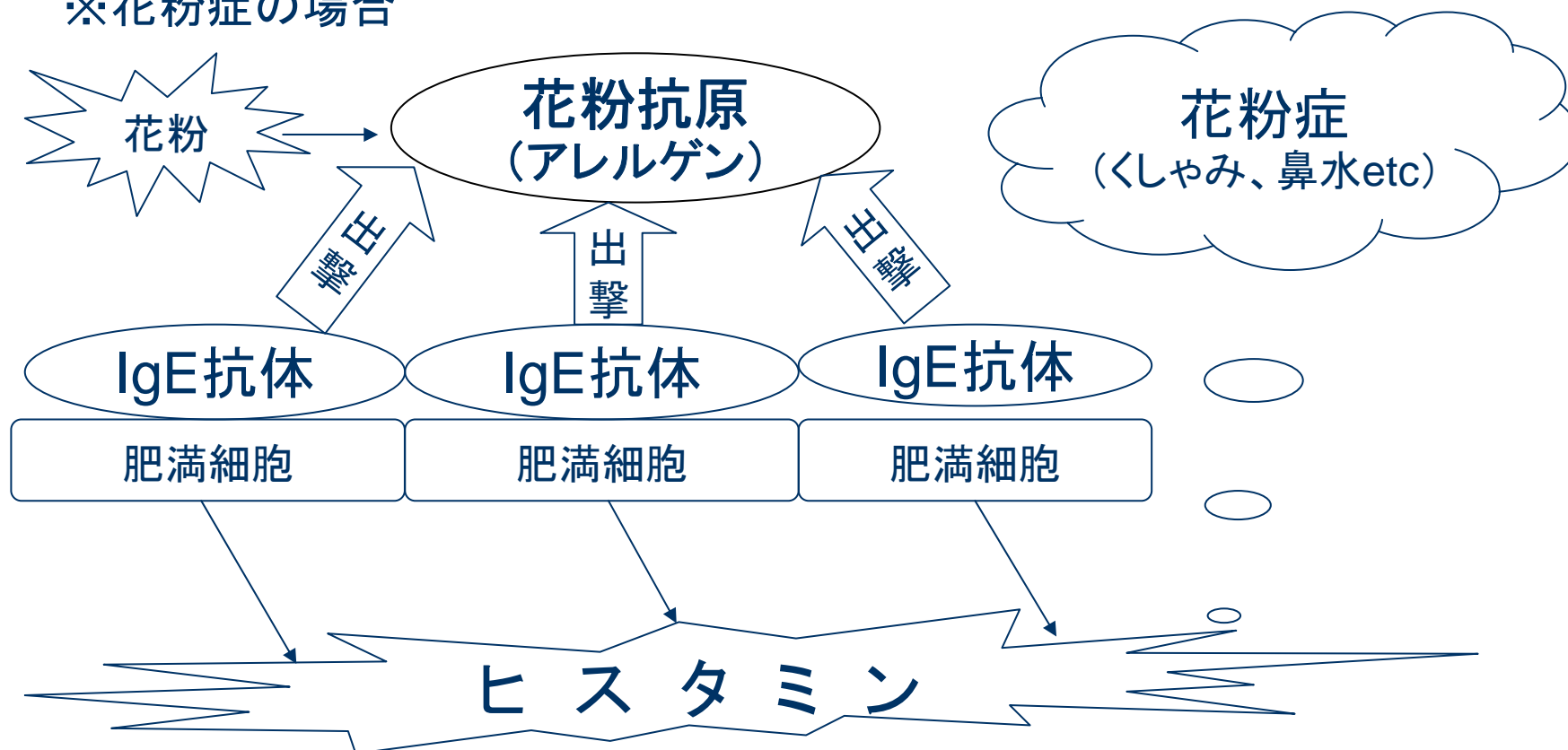


次々と改善できる可能性が高いものから行動に移していく必要があるのでは？

花粉症のメカニズム

* 体内に入り込んだ異物・・・抗原
※花粉症の場合

* 抗原に対抗する物質・・・抗体



花粉症の歴史

- **戦前**・・・「花粉症」という言葉は、なし
花粉症被害が拡大⇒スギ花粉との因果関係が解明
- **1964年**・・・初のスギ花粉症患者が報告
 - * 猛烈なスピードで患者数が増加
 - * 現在では国民の**1/5**が花粉症⇒今や、花粉症対策が急務を要する時代・・・

なぜ戦後から花粉症？

- 戦後自然林を伐採して木材の安定供給を目的として大量にスギを植林



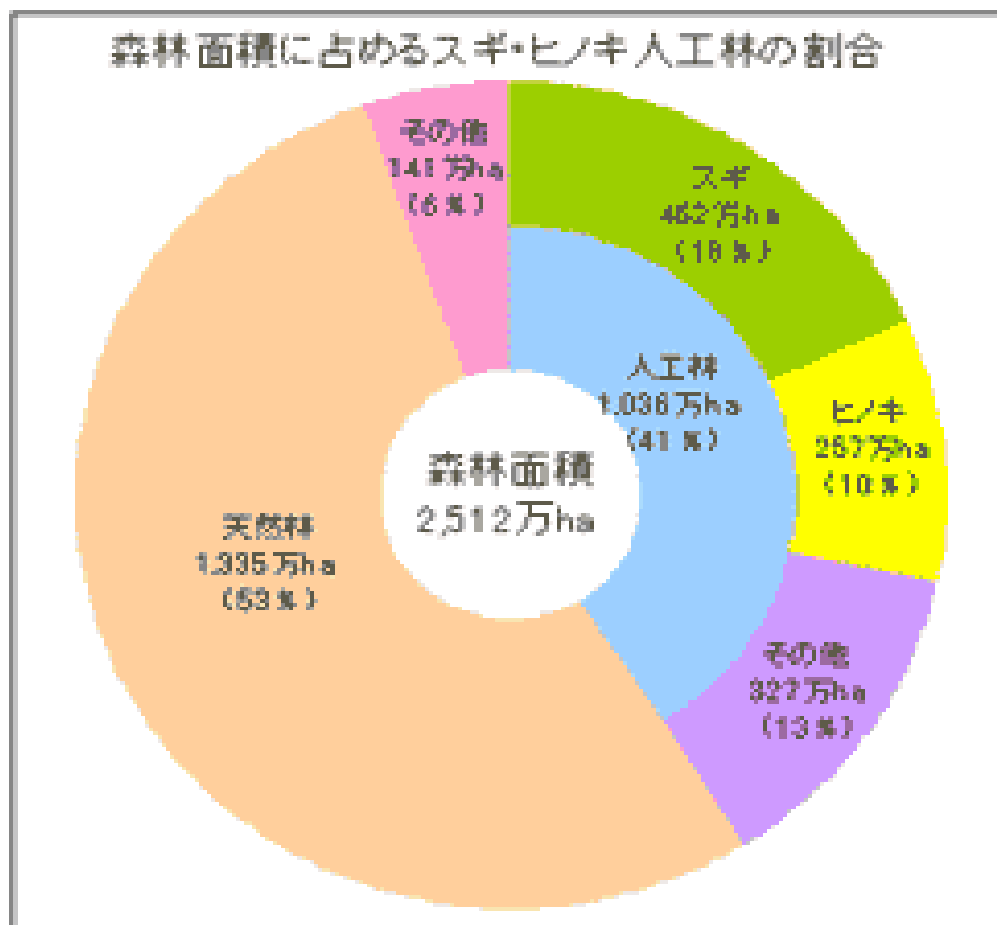
自然界でのスギ花粉含有量が一定量をオーバー



人間の免疫機能に影響

⇒花粉症は人災である可能性高い

国土面積に占める森林の割合



452万ha(わが国の森林面積の18%)・・・スギの人工林

257万ha(わが国の森林面積の10%)・・・ヒノキの人工林

なぜスギやヒノキばかりだったのか？

- スギやヒノキ・・・日本に天然分布する主要な針葉樹
 - * 生長が早い
 - * 幹が真っ直ぐ ⇒ 多方面で利用
 - * 加工しやすい
- 戦後の人工造林推進・・・造林技術が定着
 - ⇒スギ、ヒノキを造林樹種として選択
 - ⇒スギやヒノキの資源が増大

日本中のスギ・ヒノキをすべて伐採？！

- 「スギ・ヒノキの植林を禁止しろ！」
- 「日本中のスギ・ヒノキを伐採しつくせばよいのでは？」

● しかし・・・

スギ・ヒノキ(=木材資源)

国土保全

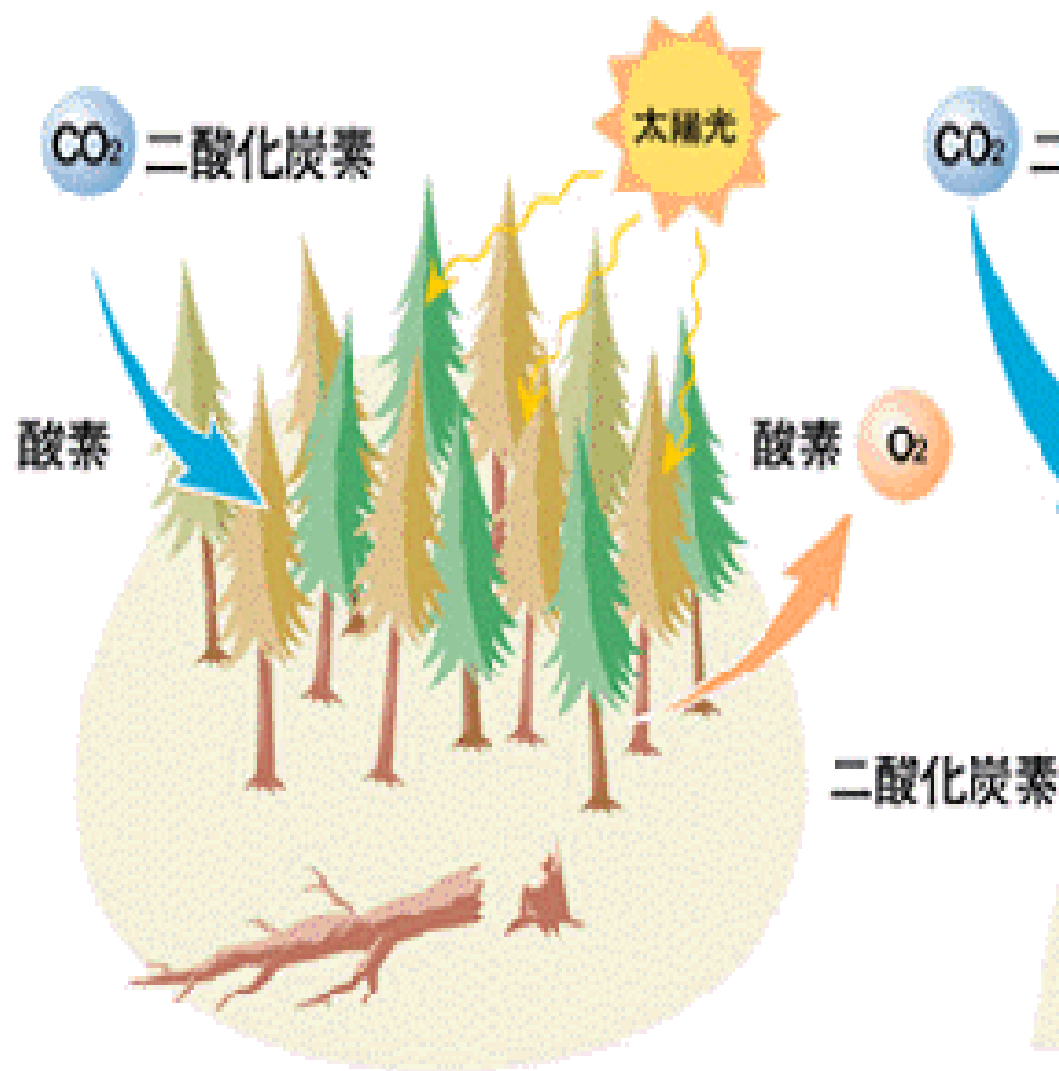
地球温暖化防止

水源の涵養

⇒ **公益的機能**

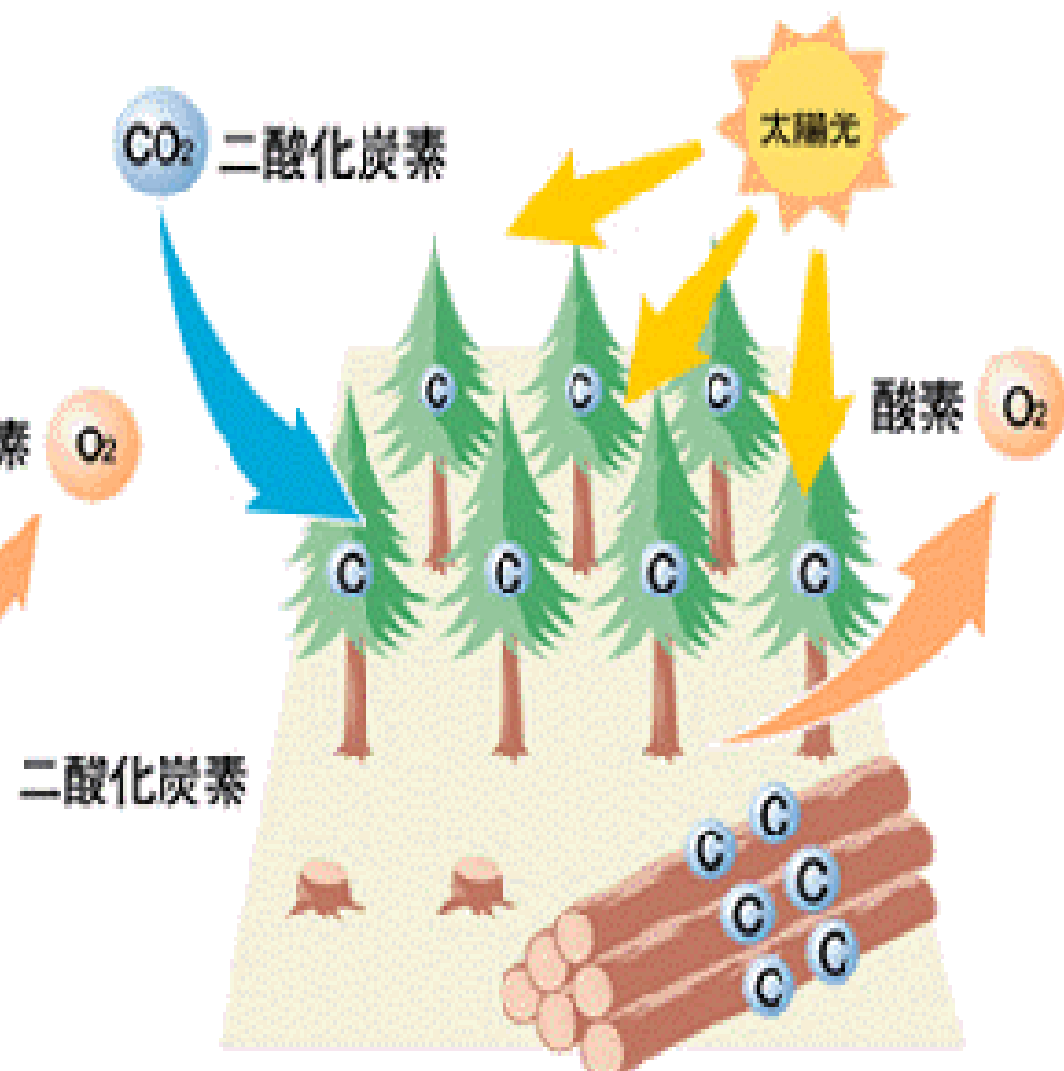
これらの公益的機能を持続的に発揮させるためには、一時に伐採・更新を行うことは好ましくない。

手入れされていない人工林



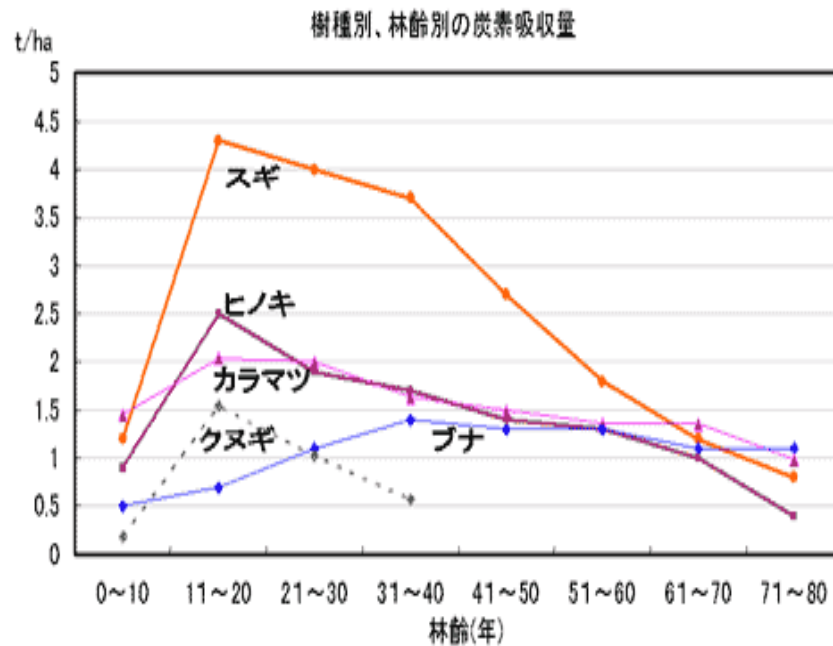
光をたくさん浴びることのできない
不健康な人工林は CO_2 をとりこみにくい。

手入れの行き届いた人工林

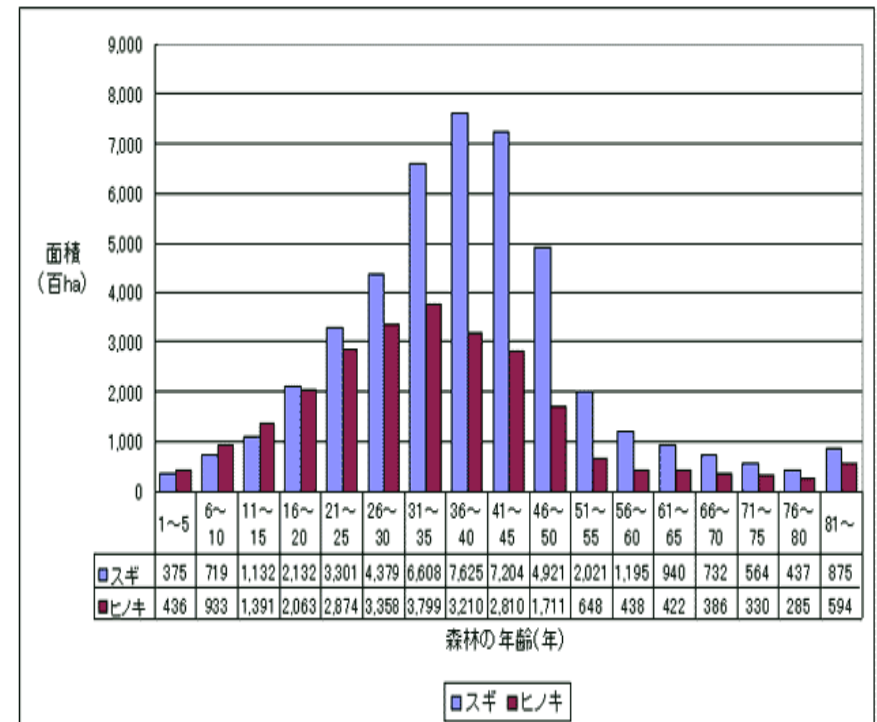


光をたくさん浴びることができる
元気な人工林は CO_2 をよくとりこむ。

二酸化炭素吸収量・人工林齢級別面積



(出典) 長野県地域森林計画主要樹種林分材積表に基づく試算



* スギ花粉生産の全盛期・・・30年生程度

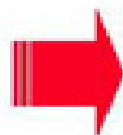
計画的な間伐とは何か？

- スギ花粉生産の全盛期・・・30年生程度
- スギ・・・二酸化炭素吸収量が最も多い樹種の一つ
⇒地球温暖化防止の観点から重要な役割
- 2つのグラフから・・・
 - * 二酸化炭素吸収量のピーク・・・樹齢10年～20年
 - * 花粉の生産が盛んな30年生程度のときに間伐を進める

⇒ { 花粉による被害が最小限に抑えられる
森林の公益的機能を最大限に生かせる
- 平成14年度・・・都市近郊のスギなどの人工林の間伐実施案浮上
 - * 林の中のスギなどの個体による雄花着花量のばらつきに着目

抜き伐り前

雄花の多い木と少ない木が共に生育し、林全体の花粉量が多い



抜き伐り後

雄花の少ない木が残り、林全体の花粉量が少ない



雄花の多い木を伐採

(抜き切り前)



雄花の多いスギを抜き伐り

(抜き切り後)



間伐にかかる費用

	樹齡	間伐費用
保育間伐	21年生～30年生	17円／m ²
利用間伐	31年生～35年生	17円／m ²

- スギの生長・・・養分吸収や日照りの関係からスペース必要
⇒スギ同士の間隔を設けるために伐採
- スギ人工林の76%・・・**民有林**
- 販売価格の下落
⇒利益が望めない
⇒民間の所有者に間伐を促すのが困難
- 民有林の所有者に負担をかけずに間伐するには・・・
⇒有志による間伐運動

1,000円
の寄付金で
約60 m²
間伐可能

景気もくしゃみ？！

- 日本の人口の1/5・・・花粉症
- 仮定
 - * 半数の患者が医者に通っている
 - * 花粉症時期の2ヶ月間に、患者は2割負担で4,000円払う
(→実費:20,000円)
⇒16,000円が健康保険からの出費で補充
- 健康保険で支払われる総額は、
 $\{(1億2,000万人 \times 1/5) \times 1/2\} \times 16,000円 = 1,920億円$
- 花粉が飛ぶ春先
 - * 花粉症対策の医薬品支出などが増加
 - * 外出を控える人が増加
⇒旅行・外食関係を中心に消費の落ち込み

環境白書における「花粉症」の扱い

- 「花粉症」という言葉が初登場するのは平成3年
- 「公害」の項目のほんの数行しか占めていない
- 今も「大気汚染との関連性」に対する可能性を匂わせる程度の扱い

*「新たに花粉症と大気汚染物質との関連等について調査研究に着手する」(平成3年『大気汚染の健康影響に関する調査研究』より一部引用)



今や国民病とも呼ばれるほど大きな問題になっているにもかかわらず、環境白書での扱いは小さすぎるのでは？

まとめ

- 現状：対策案は出ているが、足踏み状態
⇒実際に策を講じるべき
- 計画的な利用間伐の推進が花粉対策の第一歩
⇒政府や企業による花粉症被害の実状公開
⇒ { 国民の理解
間伐のための費用

参考文献

- <http://www.rinya.maff.go.jp/>
- <http://neacuer.blacksilica.net/kafun/>
- <http://www8.cao.go.jp/cstp/kentoukai/torikumi.pdf>
- <http://www.minnanomori.com/>
- <http://www.kyowa.co.jp/>
- <http://www.env.go.jp/>
- <http://www.nikkei.co.jp/news/keizai/20050124AT1F2101T23012005.html>
- http://eco.goo.ne.jp/life/health/kafun/gaiyou/05_1.html
- <http://www.kafunsyoun-bokumetsu.jp/activity.html>
- 2005年1月27日朝日新聞